

## 第2章 滞在日程

第1日	7月 7日(日)	Delta Airline 183便にて 関西国際空港着 各ホストファミリー出迎え
第2日	7月 8日(月)	北野高校ステイ① 午前 オリエンテーション 昼休み 生徒集会にて紹介 午後より 授業体験
第3日	7月 9日(火)	北野高校ステイ②
第4日	7月10日(水)	北野高校ステイ③
第3日	7月11日(木)	北野高校ステイ④
第4日	7月12日(金)	北野高校ステイ⑤ 放課後 farewell party (六稜ホールにて)
第5日	7月13日(土)	終日各ホストファミリーと共に
第6日	7月14日(日)	ホスト交代(北野高校→阿武野高校)
第7日	7月15日(月)	阿武野高校ステイ①
第8日	7月16日(火)	阿武野高校ステイ②
第9日	7月17日(水)	阿武野高校ステイ③
第10日	7月18日(木)	阿武野高校ステイ④
第11日	7月19日(金)	阿武野高校ステイ⑤
第12日	7月20日(土)	阿武野高校ステイ⑥
第13日	7月21日(日)	Delta Airline 182便にて 関西国際空港発帰途に

## 第3章 交流の日々

### # 1 David & K さんご家族

#### David との思い出

1 年 K.H.

ホストファミリーの募集があると知って、すぐに申し込もうと思った。というのも、国際交流に以前から興味を持っていたからだ。しかし、実際にホストをすると決まってからは国際交流をすることができる期待感もあったが、それ以上に、本当に仲良くなれるのか、楽しんでもらえるか、というような不安な気持ちでいっぱいになった。

今回は北野が先に受け入れをするので、関西国際空港まで迎えに行くことになった。David と最初に会った印象は、ごつい！（笑）。でも、とても優しそう。流暢ではなかったけれど、日本語で「はじめまして」と最初に言われた。

次の日から学校生活がスタート。朝起きるのが 5 時半だったので一週間 David は眠そうだった。学校や放課後は、同じ Kentwood 高校の Princess とほぼ一緒に行動した。授業についていくのが大変そうに見えたけど、休み時間は他の学生との交流を楽しんでいた。

放課後はクラブを何日か休ませてもらい、梅田に行ったり、Kentwood 高校にホームステイに行った 3 年生の先輩方にボウリングに連れて行ってもらった。David はマッछョなのでボールのスピードが半端じゃなかった（笑）。

夜は、友達と寿司や蕎麦、ラーメン、そしてお好み焼きなどを食べた。寿司やラーメンはシアトルにもあるらしいけど、ずっと「こっちのほうおいしい」、ほかの食べ物も「日本のものは旨すぎるよ！」と言っていた。僕は自分の国の食べ物を褒められて、とても嬉しかったし、なんだか誇らしい気持ちになった。又、「こんなにいっぱい色んな飲み物があるのか。」と、僕には当たり前だった自販機の数多さや飲み物の種類の多さにとても感動していたのには驚いた。

唯一、一日中遊べる土曜日に Princess と彼女のホストと 4 人で行ったのは京都。David も Princess も抹茶がとても好きなので、抹茶の店に入って抹茶そばや抹茶アイスを食べた。突然の豪雨のため雨宿りで入った高島屋では、偶然見つけた化粧品のお試しコーナーで、David がふざけてファンデーションを塗ったり、貸し出し用のベビーカーを押したり。もちろん迷惑の掛からない程度のおふざけだったが、お茶目な David に笑いが止まらなかった。

そのあとに行った清水寺は、有名な観光地で海外からの観光客が沢山いた。京都タワーに隣接する JR 京都駅にある伊勢丹の大階段に、各国のことばで「ようこそ」とライトアップがされていたのには感動した。時間を忘れて楽しんだので、あっという間に日が暮れてしまった。京都での一日は、とても充実したものだった。

そして、ホストチェンジの日。ずっと忙しかったので今日はゆっくりと過ごすことにした。日本のスーパーがとにかく気に入ったみたいなので、近くのイオンに連れて行くと、お昼ごはん用に寿司や団子

を買っていた。

お昼を食べた後、日本のマクドナルドに行ってみたいというので連れて行ったけど、すでに寿司と団子を食べお腹はいっぱいのはずなのに、ナゲットとハンバーガーを食べていた。よく食べるなあと感心（笑）。

ホストチェンジの前に “I will miss you” といってくれた時、本当にうれしかった。David のために必死に頑張ったことは無駄じゃなかった。

色々なことがあった一週間だったが、あっという間に過ぎてしまった。最初、不安でいっぱいだった気持ちもすぐに消え、楽しくて充実した日々を送ることができた。David の明るくてやさしい性格にホッと、そして時折見せるお茶目な仕草に何度も僕は笑った。別れの時には彼が本当に寂しそうで、思わず泣いてしまいそうだった。

僕はホストファミリーをすることで、外国人と交流するという貴重な経験ができて本当に良かった。アメリカと日本の文化や考え方の違いを少しだが知ることが出来たと思う。最後に、この国際交流を陰で支えてくれた先生方、そして一緒に楽しんだ6組のみんな、ありがとうございました。

## ホストファミリーを終えて

### K（保護者）

息子の「ホストファミリーをしたい」という希望を受け入れる形で、申し込み初日に書類を提出しました。ラッキーなことに、ケントウッド高校に通う David という男の子のホストファミリーをすることが決まり、息子は「よっしゃ！」と大喜びでした。

受け入れる男の子のプロフィールに、「アメフトとレスリングが好き」「学校ではレスリングをしている」と書いてあり、写真からも体格がよさそうな感じでした。今から思えば笑ってしまう事なのですが、一番最初に頭をよぎったのが「息子の 2 倍くらいごはんを食べそう・・・」でした。とりあえず、食べたいもの、食べられないものの確認はしておこうと思い、早速息子にメールを送ってもらいました。しかし、スムーズに連絡が取れず、やっと返事を聞いたのが David がシアトルを出発する前日でした。彼は「食べられないものはないので、色々チャレンジしたい」と、メールを返してくれたので、初日はいつもの 2 倍のご飯を炊き、おかずを何種類か作ることにしました。

そして、7 月 7 日、ケント生来日。駆け寄っていった息子と私たちに、笑顔で片言の日本語と英語で挨拶をしてくれました。長時間のフライトにも関わらず元気そうだったので、自宅に帰る前に七夕祭りが行われている大阪天満宮に少しだけ寄り道をしていくことにしました。大阪天満宮は大勢の参拝客で賑わっていて、David は「ここはお寺ですか、神社ですか。」と、目をくりくりさせて訊いてきました。短冊に願い事を書いて笹に括り付け、お参りをして境内をぐるっと一周しましたが、息子が七夕について英語で説明しているのを、彼が一生懸命に聞いてくれていたのが印象的でした。息子との会話で少し緊張が解けたのか、リラックスした雰囲気が私たちにも伝ってきました。息子との相性も良さそうで一安心しました。

とっても心配していた食事でしたが、好き嫌いなく何でも食べてくれたのでホッとしました。絶対食べたいというリクエストのお刺身はスーパーマーケットで買ったものでしたが、「シアトルのレストランのお寿司よりずっと美味しい」と言っていました。

長いフライトの後、猛暑の中での七夕祭り、さすがに疲れが出てきた様子だったので、明日に備えて早めに部屋で休んでももらいました。長いようで短い一日が無事終わりました。

翌日は 5 時半起床。もう少し寝かせてあげたかったのですが、学校まで約 1 時間の道のりなので可哀想ですが仕方ありません。いつもはぎりぎりまで寝ている息子も今日は早起きでした。すっごく眠そうでしたが、シャワーをしてすっきりしたのか、和食の朝ご飯をぺろりと完食。余裕を持っていたつもりでしたが、初めての登校準備に少し手間取り、いきなりバスに乗り遅れてしまいました。話を聞けば David の学校は車で 5 分の距離らしく、運転免許が 16 歳で取得できるので自分で運転して登校しているそうです。ですから、バスの時刻に間に合うように準備するということに慣れていなかったようです。電車で間に合うように豊中駅まで車で送ることになりました。車中、「あ～、ふ～～」と、大きなため息を連発。「大丈夫よ」と伝えましたが、乗り遅れてしまったことをしきりに気にしている様子でした。このことが、よほどショックだったのか翌日から感心してしまうほど朝の準備が早くなりました。

David はシアトルでホストファミリーをしていたとのことで、今春 David の自宅にホームステイした

北野の 3 年生や、北野を卒業した先輩にも知り合いがいて聞いてびっくりしました。その先輩方からお誘いの声が掛かって出掛けたりと、毎日予定が入り多忙な様子でした。連日 35 度を超える猛暑に体調を崩すのではないかと心配していましたが、疲れたときは早く寝て体力回復に努め、又元気な時は息子を道連れに夜筋トレをするといった生活を送って、体調を崩すことなく元気に学校に通うことができました。

ホスト期間が終わるころには、すっかり我が家に溶け込み、息子とは兄弟のように打ち解けてじゃれ合う仲に。「このままここにいる？」「いる！」なんて本気なのか冗談なのか分からない会話をするまでになっていました。又、David は私のことを「お母さん」と呼んでくれました。可愛い息子が一人増えたようでした。それに比べて息子は「ねえ」とか「ちょっと」とか、ひどいときは、「おばあちゃん」と私を呼びます（怒）。決して「お母さん」とは呼んでくれないので、David の「お母さん」はとても新鮮な響きでした。

ホストファミリーという大役を引き受けることになり、来日までの数週間は受け入れの準備で、あれこれ不安に思う事が沢山ありましたが、案ずるより産むが易し、ケント生が来日してからの一週間は良い意味で忙しく、充実した毎日を送ることが出来ました。欲を言えば、もう少し受け入れ期間が長ければという思いもあります。もっと色々な事が出来るだろうし、イベントなしの普段通りの生活も体験してもらえたらと少し残念に思うところもあります。しかし、一週間という短い期間でしたが、息子も私達も得たものが沢山あります。ホストファミリーを引き受けて本当に良かったと思います。

## # 2 Princess & Y さんご家族

### Princess と出会って

1 年 Y.H.

ホストファミリーの受け入れに当選したのは 6 月末のことでした。まさか当たるとは思ってもいなくて、最初の内は喜んでいたものの、だんだんと不安が募ってきました。家族に英語を話せる人もいなくて、さらにコミュニケーションを少しでも取れるように日常的な英語を勉強しようと思っていた矢先に、テスト期間に突入してしまい、英語の勉強もできず不安でいっぱいでした。

そんな期待半分不安半分で迎えた Princess 来日の当日。飛行機が遅れたためなかなか Princess たちが出てこなくて、今か今かと首を長くして待っていました。到着ゲートから出てきた Princess を見た第一印象は、「かわいい！」そして「明るそう！」でした。これならすぐに仲良くなれそうだと思います、さっきまでの不安が消えていきました。思った通り、Princess は明るくフレンドリーでとても面白い子でした。それに日本語もすごく上手で、英語が苦手な私にとってはとても助かりました。そのあと家に帰り、シアトルからのお土産をたくさんもらいました。シアトルのポストカード、マグネット、T シャツ、シリアルなどどれも素敵なものばかりで嬉しかったです。シリアルに至っては、おいしい！と家族で大評判になりました。今度 Princess の友達が日本に来るそうで、その時にシリアルを持ってきてくれるので楽しみです。学校では Princess は自分らしく思う存分学校生活を満喫していました。仲良しの David と言ひ合いしたり、ホームステイに行った先輩をからかったり、みんなで仲良く話したり、と終始笑顔が絶えませんでした。食堂では先輩へのからかいがヒートアップし、見ていてとても面白かったです。アメリカのノリは軽くて、日本人では到底できないことを平気でやるので、みんな笑い転げていました。アメリカではいつもこんな感じなんだなあと、アメリカに一層行きたくなりました。放課後には先輩方と一緒にボーリングをしたり、念願だったプリクラもとれて、とても喜んでいました。Princess は一週間で梅田に 3 回も行ったようでした。

木曜日には友達が家に泊まりに来てくれました。わいわい騒いで帰って、通学の約 1 時間の間会話が途切れずに帰ったのは初めてでした。夜には友達と次の日の英語の予習をやっていると、Princess が手伝いに来てくれました。反義語や類義語を調べるのにうんうん唸っていると、横からずっと教えてくれて大活躍でした。その日は結局寝るのが 3 時になってしまい、次の日の朝起きるのが辛かったです。Princess は学校でもずっと眠たそうにしている、休み時間や放課後、迎えにいった時も、寝転がって寝ていました。ちょっと申し訳ないなと思いましたが、あの日の夜は楽しかった！と喜んでいたので友達を招いてよかったなと思いました。

土曜日は David とそのホストファミリーと一緒に京都へ行きました。David と Princess は二人共抹茶が大好きというので、抹茶の有名なお店へ連れて行きました。何を頼むかと思えば、なんと抹茶蕎麦というものを注文していました。緑色の蕎麦で、初めてこれを見て注文するなんて大した度胸だなと感心していました。アメリカ人は得体の知れないものには手を出さないとネットに書いてあったのですが、どうやらそれも人それぞれなのです。Princess は好き嫌いがなく、なんでもおいしいと言って食べてくれて、家族でいい子やなあと言い合っていました。抹茶の次は Princess たちの要望で河川敷に行きました。なぜ京都まで来て河川敷なのだろうと疑問でしたが、二人共アメンボがたいそう珍しいようでした。

と見入っていました。アメンボや魚を捕まえるのに熱中する二人が飽きるまで、ほのぼのとした気持ちで見守っていました。残念ながら途中で雨が降ってきてしまい、本来の目的の清水寺をあまり楽しめませんでした。日本らしいお土産を買えて嬉しそうでした。

あっという間に時間がたち、次のホストファミリーへ **Princess** を受け渡す日がやってきました。今回の受け入れで改めて自分の英語能力のなさを実感させられました。**David** のホストファミリーの人は同学年だと言うのに英語が堪能で、**Princess** と **David** の会話についていけていて、私とは全く違いました。比べるとなんだか情けなくなってきた、**Princess** は私といて楽しいのかなあと落ち込んだ日もありました。しかしホームステイ受け入れは自分も楽しまないと！というアドバイスのおかげで私はちょっと立ち直り、下手なりに楽しむことにしました。**Princess** はそんな私の英語をちゃんと聞いてくれて、おかげで凄く仲良くなりました。この経験をバネに、会話についていけるぐらい英語を勉強し、今度は私がアメリカに行って **Princess** を驚かせようと思います。

最後にこの受け入れに協力してくださった先生方、泊まりに来てくれた友達、クラスメートの人達、先輩方、私の家族そして **Princess**！貴重な1週間ありがとうございました！

## ありがとう Princess

### Y（保護者）

抽選会の日、「当たったー、びっくりー」と H からメールが来ました。思わず私もやったー！と心の中で叫びました。すぐに主人と祖父母に連絡を取りました。私たちはマンション住まいだったため、来ていただくことになった場合、寝泊りは近所に住む祖父母宅と考えていたからです。主人も祖父母も抽選に当たった事をととても喜んでくれました。

ホームステイの受け入れは初めての経験でしたので不安もありました。英語は得意ではありませんし、食事は何を作ったらいいのだろう、日本の事を知ってもらうには何を伝えればいいだろう・・・と。ネットで調べたり、ホームステイ経験者に話を聞いたりもしましたが、結局は普通の日本人のお客さんを迎える気持ちでよい、何が食べたいか、どこに行きたいか、本人に聞くのが一番いいという結論に達したら楽な気持ちになりました。

Princess の第一印象は「笑顔の素敵な可愛い子！」でした。小さな体で大きなスーツケースを二つも持って来ていました。空港からの帰りに回転寿司に寄ったので、祖父母宅へ着いたときには夜の 8 時半になっていました。日本語と片言の英語を交えながらの自己紹介、部屋の案内、お土産の交換をしたらあっという間に 10 時。今日は疲れているだろうからとシャワーを浴びて寝よう言いました。祖母によると夜中部屋の電気がついていたとの事。「もしかして、眠れなかった？！」と心配しましたが、朝起きてきた Princess に聞くと「本を読もうと思ったらずぐに寝てしまった」そうでホッとしました。

自宅から北野高校まで電車で約 1 時間かかるので、通学はかなりしんどかったようです。二日間くらいは時差ボケもあったようです。朝食は何が好きかわからないので祖母に果物やサラダなど色々用意してもらいましたが、コーヒーとパンを少し食べる程度でした。夕食もちょっとつまんで食べる程度でしたので、このままでは体調を崩すのではないかととても心配しました。ところが、学校から帰って来る Princess の姿は日に日に元気になっていきました！

放課後に以前ホームステイ交流のあった 3 年生の方や、ホームステイ仲間とそのホスト生の方達とボーリングに行ったり、たこ焼きを食べたり、大阪でショッピングしたりと、H が部活に行っている間も充実した時間を過ごせていたようです。

後になってわかった事ですが、夕食があまり食べられなかったのは、夕方に外で何か食べていたからのようです。Princess はお腹いっぱいなのにうちでも食べようとしてくれていたのです。そして美味しいと言ってくれました。Princess はそういった気遣いができる優しい子でした。

とても印象深かったのがクラスのお友達二名が泊まりに来てくれた時の事です。夕食時はみんなちょっと緊張気味でしたし、Princess も一人でゆっくり寝たほうが良いかと思って別々の部屋を用意していました。そしてお休みなさいと言ってそれぞれの部屋に行ったはずが・・・夜中にキャッキヤと声が聞こえて祖母がリビングを覗くと、みんなで集合してパソコンの前で何やら楽しげに話していたそうです。夜中の 3 時に！

平日は 7 時半頃にマンションに帰宅し、夕食をすませたら 10 時頃に祖父母宅に移動するという生活でしたので、Princess には不自由な思いをさせてしまったかも知れません。それでも Princess は祖父母宅に行ってから facebook で自分の家族の写真を見せながら紹介してくれたり、シアトルの話をしてくれました。祖父母も Princess と話すのを毎日楽しみに待っていたのでとても感謝しています。祖父



は日頃のスピードラニングの成果を発揮して、家族の中では最も英語で話しかけていました。

土曜日はホームステイの仲間とそのホストの方との四人で京都に出かけて行きました。予定では家族で奈良に行こうかと考えていたので正直寂しい気がしたのですが(特に主人が・・・)、帰ってきた Princess が「Kyoto very nice!」と喜んでいたので、これで良かったかなと思いました。日曜日は家族で写真撮影をしたり、浴衣を着たりしてゆっくりと過ごしました。

あっという間の1週間でした。でも Princess が私たち家族に与えてくれた影響はとても大きかったです。外国人という以前に人として素敵な人に出会えたなという感想です。私たち家族には持っていない感性が H の刺激になったと思いますし、妹達の事もとても可愛がってくれて本当に優しい子でした。この出会いは私たち家族みんなにとって大変新鮮で貴重なものとなりました。

こんな素晴らしい機会を与えてくださった北野高校にとっても感謝しています。そして H が言いださなければ私には思いもつかなかったことでしたので、H とクジ運にも感謝していますし、こうして実現できたのは祖父母が支援してくれたからだと感謝しています。

お泊りに来てくれたお友達、京都に一緒に行ってくれたお友達、H がクラブ活動に行っている間に Princess と一緒に過ごしてくれたお友達とその保護者の方々、どうもありがとうございました。また最後になりましたが、担当の先生方には大変お世話になりありがとうございました。

### #3 Riley & I さんご家族

## Viva, Cross-cultural Exchange!

1年 I.Y.

「うわー当たった。」私はケント生受け入れをすることになりました。なぜ応募したかというと、外国の文化に興味があったからです。やる気は十分あったけど、一度も外国人と話したことがない私。こんな私が無事ホストをすることができるのだろうか？心配で心配で仕方ありませんでした。

今回、この受け入れをして一番びっくりしたことは、ライリーが想像以上に日本に詳しかったことです。「がり」や「きなこ」を知っている留学生がくるとはまさか思っていませんでした。あまりにも日本語がうまいので、思わず日本語で話しかけてしまうことも(笑)。ライリーは日本語で、私は英語で話したため、会話の中身は日本語：英語＝1：1ぐらいでした。文化面でもライリーはすばらしく、私はナイフとフォークを使って食べるのにすごく苦勞するのに、ライリーは違和感なくお箸を使っていました。お好み焼きやお寿司、お味噌汁、うな井など、食べ慣れないメニューばかりだっただろうけれど、なんでも挑戦し、アニメから奈良の鹿まで様々なことに興味をもってくれました。毎晩たくさんおしゃべりし、笑い、こうして不安だった一週間はあっという間の一週間になってしまいました。

今回ホストファミリーをさせてもらって、私は、人とコミュニケーションをとるとき、「伝えたい」という気持ちが大事だと思いました。なぜかということ、興味をもってきいていると相手の言葉がわかるようになるし、なんとか自分の気持ちを伝えたい一心で話すと、言葉が広がっていくからです。言葉はあくまでも道具で、文法が正確でも、気持ちがなければ伝わりません。あなたにわかってもらいたい。その気持ちが一番大切ではないでしょうか。

そして最後にひとつ。この受け入れは、家族、先生方、1組のみんなをはじめ、多くの方々が助けて下さって実現したものです。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ホストファミリーを経験して

### I（保護者）

我が家がホストファミリーに決定したことを知人に話すと、「家が広いのですね。」または、「Yさんは英語が上手なのですね。」と言われたりしましたが、どちらも違います。Yの部屋をライリーと二人で使用してもらいました。そしてYは今まで英語を話す機会はほとんどありませんでした。

結論を先に言うと、ホストファミリーをさせてもらってすごく良かったです。我が家に来てくれたライリーは、とても礼儀正しく過ごしてくれたので、困った出来事は1つもありませんでした。毎朝ベッドを整え、スリッパを揃えて朝シャワーすることなく、私たち日本人と同じように夜お風呂に入ると言ってくれました。また、Yとライリーの部屋から毎日楽しそうな笑い声が聞こえてきて本当の姉妹のようでした。

Yのホストとしての役割

- ① 朝一緒に学校に登校
- ② ライリーの時間割にあわせて教室案内
- ③ 昼食の学食メニュー注文のサポート
- ④ クラブ活動後待ち合わせ時間を毎日打ち合わせて一緒に帰宅する。

主に①～④の役割をすることによって、Yは緊張することなく、ライリーとコミュニケーションがとれるようになりました。またホストファミリー説明会の時に配布された「ホストファミリーの手引き」には、ケントの生徒とどのように過ごせばいいのか丁寧に説明されていたことと、何か困った時には、英語科の先生方とすぐに連絡がとれる体制だったのは、とても心強かったです。お陰様で、楽しいホストファミリー生活を送らせていただくことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

## # 4 Alisa & K さんご家族

### Alisa と過ごした貴重な一週間

2 年 K.N.

ダメもとで、締切間際に応募したホストファミリーだったのが、幸運にも 4 人の 1 人になることができました。いざ決まると、全く違う環境で過ごしてきた彼女と、うまくコミュニケーションをとれるのか…と、不安が募ってきましたが、実はテストに追われ、考える間もなく当日を迎えた、というのが事実です。

けれども、空港でキラキラ輝く彼女の瞳を見たとき、その不安は一気に飛んで行きました。

振り返ると、あっという間に過ぎてしまった一週間。アリサの日本に対する強い思いを、感じる毎日でしたが、特に食事のとき、徹頭徹尾お箸を使う彼女の姿には、尊敬に近い感覚を持ちました。

アリサと生活する中で、私達の心の架け橋は、『ありがとう』という言葉だということにまもなく気がつきました。とても上手に優しく『ありがとう』って言ってくれる彼女との距離が、日毎に縮まり、私のことを身近に感じてくれて、互いに分かり合えることが喜びになっていきました。彼女の『ありがとう』は、本当に心からの言葉に聞こえ、相手を大切に思う気持ちが伝わってきました。

平日は、一日部活がオフの日に、アリサが大好きらしいので、友達や他の留学生も一緒に梅田のポケモンセンターに案内しました（私も初めてでしたが…）。その時は、目を輝かせて一杯買い込んでいました。その日は、友達 4 人がうちに来てくれて、餃子をみんなで作って食べて、辛子を入れたりしてと大騒ぎして盛り上がった楽しい夕食でした。

回転寿司も行ってみたい、と言っていたので体験。やっぱり面白がって、写真を撮りまくっていました。「嵐」が好きで、帰りに CD や雑誌を買いに行ったり、と日本のアイドルをよく知っているのにびっくり！ケントレイクでは、ジャズのバンドでバイオリンを弾いてるのに…!?

北野最後の日は、バスケット部の仲間が来て、焼肉パーティで食べてしゃべって賑やかでした。花火をしようと思ってたのに時間切れになってしまいました。

アリサは、早寝早起きらしく、夜は歯も磨かずに 10 時～10 時半くらいには「おやすみなさ～い」、朝は 5 時半くらいには起きてるようですが（母によると）、「おはよう！シャワーしたら？」と母が言うまでは部屋にいて、ぴったり約 30 分で終えて、一緒に朝食をとるという毎日でした。ケントレイクでは、5 時には起きて 6 時くらいに、マイカーを運転して登校すると聞き、同じ高校生でもすいぶん違うことを知りました。

日本語を少しでも上手に話せるようになりたい！という、彼女の強い意志を感じる場面が多くあり、言葉が出てこなくて二人で一生懸命考えて考えて…。ポロッと出てきた時には、お互い思わず手をたたいて喜びました。とても些細なことなのに、心からお互いの気持ちを表現し合えたのだと思うと、一歩近づいた気がして本当に嬉しかった！

この一週間、一瞬一瞬が新しい発見の連続でした。運良くホストをさせて頂いたこと、私ができる環境にいる事、に改めて感謝したいと思っています。

周りで支えて下さった方々、本当にありがとうございました。  
この経験は、私の素晴らしい宝物になりました。

## 大切な思い出として～この夏の8日間

K（保護者）

今回初めて、最初の1週間が北野での受け入れになりました。娘は前日まで第2中間考査だったため、前もってメールでのやり取りが手薄で、多少の心配もありながらの受け入れでした。

7月7日、閑空で2時間待ちで迎えたアリサは、大柄で1歳違いとは思えない印象でした、我が家に向かう車の中で、日本語を3年ほど学んでいること、初めてのホームステイにドキドキ興奮していること、3年前にお姉さんも来日した事など、英語と日本語で一生懸命話そうとしてくれました。

山の麓の我が家のロケーションも気に入ってくれて、幸いにも七夕だったので、朝から準備していたちらし寿司や七夕餅などで、日本を味わってもらう機会に恵まれました。姉と兄、家族全員揃ったので、夕食後には笹の枝にそれぞれの願いを短冊に書いて飾りました。短冊の説明を聞いたアリサは、迷うことなくサッサと日本語で「いい大学に行きたい!」ときれいに書き、皆で感嘆!!Nも迷うことなく「中央大会に出る!」と…。

箕面は始発駅なので、ラッシュで辛い思いをせずに、毎日二人で仲良く通学出来たのは良かったようです。梅田のポケモンセンターに友達と行ったり、クラスや近くの友達たちが集まってくれて、アリサの大好きな餃子と焼きそばをみんなで（アリサも男の子達も餃子作りが上手でびっくり!）作って焼いて、それぞれのおうちの方からの差し入れも頂き、楽しいパーティになりました。

また、女バスの仲間が部活後、疲れているにもかかわらず来てくれて、焼肉パーティで遅くまで大いに盛り上がり賑やかでした。

中々普段英語をしゃべるチャンスがないため、日本語もある程度わかってくれるアリサは、みんなにとってとても話しやすい留学生だったようです。

あつという間の一週間、土曜日は娘も何とか部活を休ませてもらい、父・母4人でアリサが希望していた京都を案内しました。祇園祭り前の渋滞を回避するため、竜安寺と金閣寺へ。竜安寺の石庭で、『空』『無』といった禅のこころを主人が説明するのを、一生懸命耳を傾け、考えて自分の言葉に置き換えながら理解しようとする姿に、日本でいつかまたもっと学びたい、という思いが叶うような気がしました。

名残惜しい最終日、試合に行った妹に代わり、兄と4人で地元箕面の滝へ。森林浴のウォーキングを味わい、しばし滝のかすかな冷気を感じて喜んでくれていました。午後からは大阪城の天守閣から大阪を一望し、国際美術館の招待券があったので見学した後、娘と合流。最後の夕食を済ませて、阿武野のホスト宅に送りました。

最後の日の朝、「N」「おかあさん」と呼ばれて、和風の可愛い封筒に入ったお手紙を、アリサから渡されました。（そういえば、京都から帰って来てカルフルに寄った時、百均でじっくり買い物してたナ… 夜、書いてくれたのね!）あとで、読んで下さいって。全部日本語で、一週間ありがとうって、何度も書いてくれていました。

拙い英語で終始した我が家ですが、日本に来たからと一生懸命日本語を使おうとし、フォークやスプーンを使おうとせず、ゆっくりゆっくりでも必ずお箸で食べていました。

この食べるスピードのゆっくりさはアメリカでもそうらしく、娘とテンポがぴったり。カレーライスを出した時もお箸で食べようとするので、家族みんなで爆笑でした。

朝も、我が家のご飯とお味噌汁がいい、という要望で日常を味わってもらうようにしつつ、サンドイッチやパンの手作りがとても気に入ったようで、賛辞を頂くと朝からこちらも元気になりました。慌ただしい日々でしたが、お母さんのご飯が恋しいってメールが来てるよ、と聞いてニンマリ! また来てね、と思った母でした。

(実は、彼女のお母さんと私が奇しくも同じ誕生日だとわかり、ご縁を感じた次第です)。

アリサは、お父さんがノルウェー人、お母さんがイタリア人、おばあさんがインドネシア人、お父さんの妹の夫はアフリカ…と、とてもインターナショナルな家系らしく、誇らしげに総勢の写真を見せてくれましたが、WE ARE THE WORLD のコマーシャルのようでした。

細かい心配りや、真面目さ、礼儀正しさ、そして今の子どもたちに珍しい‘静けさ’を感じる子でした。

将来留学したい娘にとって、良い刺激と体験になった一週間だったと思います。ハードな部活に入ってるから難しいかな、と不安でしたが、ホストをされた先輩の方々のアドバイスや、いろんな仲間と一緒に楽しんでくれたおかげで、より充実したと感じています。

ありがとうございました。

## 第 4 章 交流を終えて

(the impressions of the international Exchange Program in July, 2013)

The questions they are requested to answer are as follows:

- (1) Did your Kitano family accommodate all of your needs?
- (2) Though it was a short stay, what did you enjoy most with your Kitano host family?
- (3) What did you think of Kitano? What did you enjoy or what was difficult to do at Kitano?
- (4) Do you have any suggestions that could help to improve our exchange program?

Louck Christopher (Chaperon from Kentwood High School)

(1). Although I did not stay with a host family, the hotel employees were very kind and helpful. The morning breakfast had a great variety of options. My personal favorite was the octopus. It was also nice to be able to walk to school along with Kitano students.

(2). Since I did not stay with a host family, I will instead talk about my experience with Kitano staff and students. I felt very welcome and both staff and students were very accepting of me. I am overwhelmed by how accommodating and accepting Kitano has been. It has been wonderful seeing old friends and making new ones.

(3). I think Kitano is an excellent school with great staff and students. Everyone works very hard, but I also see that they are happy. I fully appreciate people who work hard to learn new things. Passion is also very evident in Kitano High School. I enjoyed being able to watch some different classes. I also enjoyed having lunch with the students. The little things have great meaning to me. Just watching students talking in the hall or practicing with their club are very enjoyable to me. Even though the weather was hotter than usual, I felt very



comfortable this year. I am excited to continue helping with the exchange program as best I can.

(4). The only part of the program that could have possibly been any better, because it was extremely enjoyable, would have been to know my own schedule. I had the student's schedule on what classes they would attend, but I did not know that there were classes I was expected to attend and I ended up missing the Japanese class interview because I did not know I was supposed to attend until after I had missed it. I very much enjoyed my visit. I appreciate everyone taking such good care of me.

Students from Kentwood High School

David Park

(1). My Kitano family accommodated all of my needs and provided much more than I expected. They showed kindness and brought me in as their own child. It only took a couple of days before I felt like I was at home. For example, they provided me with my own separate room, served me all kinds of various foods, left my laundry folded neatly on top of my bed every night, and showed much love. Everything was perfect.

(2). What I enjoyed most about my Kitano family was the family time that we spent together. Although there was a language barrier, we tried to comprehend what each other was saying and had an amazing time. Seeing the Japanese lifestyle and culture first-hand was a great experience that only comes a very few times in one's life. I was very lucky to have a chance like this

(3). When I think of Kitano High School, I cannot say many negative things. Kitano High School brought forward many opportunities for all of the exchange students and helped us with all of our needs. I enjoyed all of the classes even

though I could not comprehend some of material in the class due to the language barrier. English class and math class were extremely fun for me because we got to participate in them. The only difficult thing for me was the language barrier but even with the language barrier, I was lucky enough to have a host that could speak pretty good English. Kitano High School is a prime example of a top-notch high school.

(4). I would like to stay with just one host family for the 14 days that we stay here. It seems as though right when we get bonded with the hosts, we have to leave. Also having our own freedom for which classes we could take would also be nice. Classes like Japanese Classics was difficult for us to understand and we did not know what to do. If we had the freedom to choose the classes we would like to do, it would have been nice. Overall, my stay in Japan was great and I had an awesome time. There is not much I'd change about the exchange program.

### Princess Agduyeng

(1). Of course! They gave me everything I needed. Even things I did not need was given to me with such kindness. The students were nice and very helpful to me. Also the teacher's always tries to include us in their lessons.

(2). I enjoyed talking to them about American culture a lot. They shared a lot of Japanese culture as well. Things I never knew were told by them. Even with the language barrier between us, we were able to understand each other very well. I also love Mama-san's food! She cooks really well and I love it. They are honestly the most amazing people I have ever met. I am glad that I came here not just for experience but I also gained a family. I felt very welcomed and part of their family for the time being. My host's parents were very nice and cheerful every day. Although I was not showing that I was tired, they were still kind enough to let me rest. They were everything I could ask for.

(3). Kitano? Kitano is such a refined school; I believe that it is one of the best schools here! Teachers were very accommodating as well. Letting us participate in class was honestly really nice. I enjoyed reading in class and helping students with English. The only difficult thing to do was explaining long things to people. For example, explaining what it is like in American high school classes. We do have dictionaries and the internet so that makes it so much better.

(4). The program here in Kitano is great the way it is. The only suggestion I have is to do the same thing we do in Kent, which is having only one host family. It's much easier and students will have more opportunities. By the time we get used to going to Kitano and get to know other students besides our hosts, it is already time to leave and say goodbye.

Students from Kentwood High School

Riley Honbo

(1). Yes, my host family was nice to me giving me time to get situated and being very patient with my choppy Japanese. They made me homemade dinner every night and gave me some essential items for Japan, such as towels and soap.

(2). I really enjoyed eating dinner with Yuka's family. Her mother knows a lot of English so talking to her was really easy, and she helped me with some Japanese phrases along with Yuka. I loved experiencing everyday home culture with my host family, like how they eat meals together but say いただきます before and ごちそうさまでした after the meal. I feel like I learned a lot from my host family about Japanese culture.

(3). I really enjoyed all of the different classes offered here at Kitano. I liked the math class and music class, they are very different in what they teach and how they do it. I also found it fascinating that orchestra, band, and other clubs are student run. I thought that was interesting since at our school (Kentlake High

School) all club activities must have a teacher present in order for the club to be continued. I was pretty impressed with Kitano students and the maturity they show.

(4). Let us stay longer!!! Or come when Kitano students have a school break.

Alisa Vinje

(1). Yes. And more. My host family was very sweet and would always try to make sure that everything was comfortable for me.

(2). I really enjoyed going shopping in Osaka (Umeda). Seeing the Pokemon Center was really cool because we don't have such a store in America. Also, the food that my host mother makes every morning and every night is really great.

(3). Kitano is incredible. Everyone was very nice and it was fun to be in a school that was so excited to meet us. It was pretty hard to understand some classes (mainly math) because they required a lot of explanation but other classes (like chemistry and music) were fun for me because they were subjects that I enjoy in America.

(4). Maybe, in regards to classes, you could offer the students a list of classes that are available for them to visit. That way, we can always stay entertained and avoid being disrespectful.